

2019年度事業報告

1. 公益目的事業

(1) 国際相互理解のための体験活動及び普及啓発事業

■国際理解講座 Global Understanding

CENA夏期学校の事前学習を実施。5月25日から26日に福島県会津若松市にて原発事故について学び、二本松市にて田植え体験などを行った。

■CENA (Civil Society Education Network in Asia)夏期学校(共催)

CENA夏季学校はアジアの歴史を学び、各国の情勢や社会問題を討議し、武力によらない平和構築に向けて学生が学び合うプログラム。沖縄にて、「国家暴力」をテーマに教授のレクチャーや学生のプレゼンテーションを行い、現地研修フィールドワークを行った。日本での開催となるため、早稲田奉仕園が中心的役割を担った。

参加人数：95名(全日程参加大学生・院生54名、教職員18名、部分参加者23名)うち奉仕園からは参加者8名、スタッフ2名、現地スタッフ1名

期 間：8月26日～31日

参加団体：恵泉女学園大学、聖心女子大学、韓国・聖公会大学校、韓国・韓信大学校、台湾・世新大学、タイ・Asia Muslim Action Network、インドネシア・イスラーム大学、パキスタン・CWSA、早稲田奉仕園

助 成：庭野平和財団、ウェスレー財団

日 程：

	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日
午前		沖縄国際大学 講義	平和祈念公園、 辺野古、	フィールドワ ーク振り返り、 ディスカッシ ョン	特別講演	各自フライト
午後	各自フライト、 宿舎到着 自己紹介、学生グ ループ作り、趣旨 説明	首里城訪問、 映像視聴	チビチリガマ、 普天間基地な ど訪問	国別学生発表	グループディ スカッション、 台湾少数民族 演劇、カルチュ ラルショー	

■日中大学生による相互交流ワークショップ

相互交流ワークショップを通じて、異なる文化や価値観を受容することができ、国際的視野

が広がるといった参加者の成長、グローバル人材としての向上が図られることを目的とする。

「来日」と「訪中」の2つのプログラムより構成している。

(1) 来日プログラム(中国延辺大学「日本文化体験研修プログラム」)

期 間：2019年7月26日～8月4日

会 場：早稲田奉仕園

参加人数：中国吉林省延辺大学学生9名

内 容：日頃真剣に日本語を学んでいる大学生が実際に日本に来て、勉強会、企業訪問、地域コミュニティへの見学、茶道や着付けなどを通じて、日本の文化、社会への理解を深め、自分自身を振り返り、国際的な視野が広がりへ繋げた。

	午前	午後	夕
7月25日		延吉～仁川	仁川～成田空港、奉仕園到着
7月26日	オリエンテーション	茶道体験、浅草散策	歓迎懇親会
7月27日	ワークショップ①「私と日本語」& 研修テーマについて	早稲田大学キャンパスツアー、江戸博物館	
7月28日	講演「二十一世紀を生きる皆さんへ」	ワークショップ②「私と日本語」& ヴィジョンについて	
7月29日	勉強会(発表会準備)	自由活動	
7月30日	企業見学①株式会社JPM	企業見学②モスフードサービス	延辺大学OBOGとの交流会
7月31日～8月2日	富士登山	講演：先輩体験談	
8月3日	研修発表会(学生主催)	送別昼食会&振り返り	
8月4日	チェックアウト、帰国		

(2) 訪中プログラム(日中大学生国際交流ワークショップ in 中国延辺大学)

期 間：2019年9月1日～7日

会 場：中国吉林省延辺大学

参加人数：学生8名、引率スタッフ2名

内 容：中国の民族大学である延辺大学を訪問し、現地の大学生とワークショップや発表会を実施。講演、ホームビジット、高校訪問等を通じて、現地の文化的背景や歴史、習慣等への理解も深める。グローバル人材として不可欠な国際的な視野を獲得し、とくにアジアの多様性に目を向ける人材育成を達成した。

	午前	午後	夕
9月1日	成田→ソウル→延吉	周辺案内、歓迎昼食会	
9月2日	講演会「朝鮮族と出会う」	キャンパスツアー、市内見学	
9月3日	延辺博物館	大学生相互交流ワークショップ	餃子づくり体験
9月4日	朝市見学、国境見学	中間振り返り	ホームビジット
9月5日	尹東柱生家訪問、龍井市人民政府見学	和龍高校訪問	
9月6日	研修報告会		送別懇親会
9月7日	延吉→ソウル→成田		

■韓国ハンバット大学日本インターン研修

奉仕園が受け入れ窓口となり都内の企業でフルタイムインターン(現場実習)を実施。当実習はハンバット大学の単位認定を伴うプログラムであり、奉仕園施設に宿泊した。

参加人数：3名

期 間：2019年12月23日～2020年1月23日の4週間

研 修 先：株式会社アドホックシステム(台東区)

成果・結果：日韓関係の影響により、韓国内で日本への研修プログラムの予算が減額とされ、参加人数が減少した。宿舍の提供にとどまった。

■年中行事を楽しむ会 Feel Japan

留学生が日本の文化や風習を体験し、国際理解を促進するプログラム。友愛活動の一環として、国際学舎に居住する留学生及び早稲田大学留学生等を対象にプログラムを開催した。

通年でカフェを月2回(3号館1階ロビーにて、第1・第3金曜日夕方)開催し、季節ごとにイベント(茶道、七夕、生け花、書き初め、豆まき、ひな祭りなど)も行い、日本と外国人留学生が交流できる機会、ボランティアスタッフへ留学生活の悩み相談などをできる機会を作る。

開催日	内容	参加者
4月～3月隔週	ドリームカフェ	平均30名(うち学生ボランティア9名、ボランティアスタッフ3名)
6月17日	歌舞伎鑑賞	48名(留学生22名、日本語ボランティアの会学習者17名、引率：友愛学舎生4名、日本語ボランティアの会5名)
7月	七夕のロビー展示	
7月19日	流しそうめん	34名(スタッフ含む)
9月27日	茶道体験	約15名
1月10日	書初め	約15名
1月26日	お餅つき	30名(早稲田教会と合同)
3月	ひな祭りロビー展示	

■韓国の人々に学ぶスタディーツアー2019

「市民参加で作るくらしのしくみ～『ジェンダー平等』と『メディア』の現場を訪ねる韓国スタディーツアー～」。「もう泣き寝入りはしない」と韓国で大きくひろがった#MeToo, #WithYouムーブメント、そして言論弾圧に屈せず市民との関係を築き上げてきたメディアの実践の状況から、私たちの暮らす日本に大切なヒントを持ち帰ろうという趣旨で行った。

期 間：10月18日～21日の3泊4日

参加人数：16名、スタッフ2名

内 容：

旅程 / プログラム

※諸事情により日程が変更になる場合があります。

日付	午前	午後	夜
10/18 (金)	OZ1055 羽田 9:00 発—金浦 11:20 着	★ソウル市女性家族支援財団訪問 担当者よりソウル市のジェンダー 平等の主要政策について聞く ★ソウル女性プラザ見学と NGO 団体紹介	★懇親会
10/19 (土)	★開かれた女性センター訪問 女性ホームレスの支援活動と シェルター見学	★韓国女性の家訪問 性売買被害者の回復と自立のための 施設	自由行動
10/20 (日)	★「ハンギョレ新聞」訪問	★民主人權記念館（パク・ジョンチョル 記念室）見学	★自由行動または、 市民団体と交流
10/21 (月)	★韓国性暴力相談所訪問	金浦空港にて解散 OZ1045 金浦 15:30 発—羽田 17:35 着	

（2）国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業

■日本語ボランティアの会

日本語の学習を必要とする人に日本語学習の支援をするとともに、国際交流を深める。

ボランティア講師：奉仕園日本語教師養成講座修了者

学 習 者：日本語学習を必要としている10歳以上の方、どなたでも

内 容：「日本語ボランティア養成講座」の修了者がボランティア講師として日本語を必要としている学習者にボランティアで日本語を教える。課外活動、学習者発表会、新年会、研修会など随時行い、豊かな交流を図る。ボランティア講師の研修会等も実施する。

活 動：水曜日3クラス 金曜日1クラス

それぞれの曜日に、学習者発表会、新年会、遠足、日本文化プチ体験&ティーパーティ、ボランティアの研修会や懇親会が開催され、充実した活動を行った。加

えて年2回、「こんにちは日本語」を発行し、ボランティアにも学習者にも楽しい読み物になっている。なお、新型コロナウイルスの影響で、2月28日のクラスから会の活動を休止した。水曜日2日、金曜日3日の学習ができなかった。

成果・結果：年間80日(水曜日40日、金曜日40日)の授業日があった。のべ参加人数はボランティア2,199名学習者4,305名。ボランティアが熱心に学習者を教え、日本語を必要としている人たちの大切な居場所となっている。

■早稲田ネットワーク外国人無料生活相談会(共催)

日本社会で暮らす在日外国人への無料相談窓口を開設することで、行政や教育的な制度活用を支援し、共に生きる社会を身近な形で実現することを目指した。生活・労働・教育の分野で相談スキルを持つ個人が集まり相談業務に当たってきたが、来会者が多くは得られない現状があり、2019年度をもって活動終了とした。

日時：5月12日、8月11日、11月10日、2020年2月9日の13時～17時

会場：日本キリスト教会館1階11号室

■災害被災者支援ボランティア活動

福島原発事故により首都圏に自主避難されている家族にも呼びかけ、奉仕園留学生とともに国際交流を兼ねた富士登山を実施した。(学寮事業部 第10回富士山登頂研修旅行参照)

■野宿者支援給食活動(共催)

給食活動の食事準備、配食のボランティア活動を通して、貧困や生存権の問題を身近に感じた。早稲田教会、東京平和教会、日本福音ルーテル本郷教会、本郷学生センターの有志が参加し、協働プログラムとして実施した。

参加者数：ボランティアは準備にのべ266人、配食に300人が参加した。

活動実績：のべ5,502食を準備し、2,369人の方にお渡しした。

協力：保存食は学校の備蓄(聖望学園中学校・高等学校、玉川聖学院中等部・高等部、青山学院女子短期大学、立教大学)、企業の備蓄を分配するNPO法人セカンドハーベスト・ジャパンなどの団体のほか、個人でもご支援をいただいた。

(3) 国際相互理解のための語学講座及びその他講座事業

■アジア語講座

1973年創設のアジア語講座を母体として、はじめて文化や言語に触れる方対象の語学集中講

座を開講した(ベンガル語・ヒンディー語・ベトナム語)。土曜午前の時間帯に設定することで、夜間に参加できない層を対象にした。

期 間：前期 6月8日～7月20日 毎週土曜日全5回

後期 11月16日～12月14日

受講者数：前期 ベンガル語8名、ヒンディー語7名、ベトナム語8名

後期 ベンガル語7名、ヒンディー語8名

講 師：スルタナ(ベンガル語)、町田和彦(ヒンディー語)、トーホアン(ベトナム語)

■日本語ボランティア養成講座

年々外国人が増えてきている中、それぞれの地域に居住する外国人が暮らしやすいように、また、日本語を介してコミュニケーションができるように、日本語を外国人にボランティアで教えるノウハウを学ぶ。養成講座を受講する人が減っているので、助成金の申請などをし、金額的にも受講しやすい講座にするなどボランティア希望者が増えるよう、受講しやすいように改善していきたい。

受講人数：初級Ⅰ-16名、初級Ⅱ-2名、中上級-7名の合計35名

内 容：外国人に日本語を教えるノウハウを学ぶ講座。初級Ⅰ、初級Ⅱ、中・上級を1年かけて学ぶ。初級Ⅰ終了後からボランティア活動が開始できるようになる。

期 間：初級Ⅰ 4月～7月 全15回・計30時間

初級Ⅱ 10月～12月 全11回・計22時間

中・上級 2020年2月 全4回・計10時間

講 師：山本和子(武蔵大学・防衛大学校、非常勤講師)

成果・結果：全受講生が講座に熱心に通われ、課題に取り組み、70%以上の出席率で各コース全員が修了証書を手にした。

■Let' s 朗読

朗読の基本や声の出し方などを学び、元気を養い、普段の生活に張りを与える。詩や物語の世界で感性を磨く。

受講者数：前期12名 後期11名

内 容：ストレッチで体をほぐした後、発声練習で発音や発声をクリアにし、作品に取り組み、詩や物語を感じながら朗読する。

期 間：前期・後期の2期制各期8回、1回120分

講 師：飯島晶子(朗読家・「VoiceK」主宰)

成果・結果：講座最終日にはミニ発表会を開催予定だったがコロナウィルスの影響で急遽休止となった。(最後の1回はキャンセルとなる)。毎回のレッスンで着実に実力

がついてきている。いろいろな作品を通してその世界観も広がっている。

■スコットホールでゴスペルを歌おう

声をしっかり出し歌を歌うことにより元気になる。メンバーとのコーラスワークでハーモニーを楽しみつつ、習った歌をプログラムに組み込んで地域やデイケアなどの施設でボランティアとして披露する。

受講者数：各シーズンとも12名～13名

内容：スコットホールで思い切り声を出し、合唱を楽しんで元気になる。ストレッチ、ボイストレーニングをし、シーズンの課題曲（講師によるオリジナルアレンジ曲）を練習、クリスマスには発表会を開く。

期間：シーズン1(4月～6月)、シーズン2(7月～9月)、シーズン3(10月～12月)、シーズン4(1月～3月)各シーズン7回

講師：藤子(プロシンガー)

成果・結果：今年度も4月には新宿区レガスマつりに出演し、1名の方が講座に加わった。9月と12月にはフォレスト西早稲田の敬老会とクリスマス会に出演。クリスマス発表会は9回目となった。また、1月には日本語ボランティアの会新年会に出演した。シーズン4はコロナウィルスの影響で2回のレッスンが休止となった。受講生はスコットホールで歌えるのを楽しみにしており、毎回充実したレッスンとなっている。講師オリジナルアレンジの課題曲も好評で、この講座の強みとなっている。

■パイプオルガン・アカデミー【新規】

キリスト教会での奏楽者のスキルアップ、キリスト教音楽への理解の促進。

受講者数：体験レッスン8名、通常レッスン7名

内容：プロのオルガニストによる個人レッスン

期間：夏季からの実施を予定。

講師：水野均(桐朋学園大学講師、早稲田教会オルガニスト)

協力：早稲田教会

成果・結果：6月から受講申込をし、2019年度は8名が体験レッスンを受け、そのうち7名が継続して個人レッスンを受けている。昨年度の延べレッスン回数36回。個々人が講師のレッスンを受けながらスキルアップしている。受講者から正午礼拝や友愛学舎式典の奏楽の奉仕をしていただいた。

■企画展「祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol.1」

聖書を題材にした作品を多く残した渡辺禎雄の版画等約 100 点の寄贈を受け、ギャラリーでの展示会を開催した。

会 場：スコットホールギャラリー

期 間：1月 24 日～29 日

来場者：約 150 名

■STUDY HALL！

単発のイベントを束ねる枠組み。「STUDY HALL」は主にアメリカで使われる「自習室」の意。まなび舎の4つのカテゴリーに沿い、「おもしろい学び」の空間を目指す。ある程度集客を期待できそうな企画について時期を逃さずに実施、「おもちゃ箱」のように雑多であることを特徴とするプログラム。

第 28 回	映画「ザ・思いやり」上映会&リラン・バクレー監督トーク 2019 年 6 月 1 日(土) スピーカー：リラン・バクレーさん 参加者：約 40 名
第 29 回	桃井和馬 写真展「和解への祈り」&講演会 〈写真展〉2019 年 6 月 7 日(金)～12 日(水) 〈講演会〉2019 年 6 月 8 日(土) スピーカー：桃井和馬さん 参加者：94 名(展示)、62 名(講演)
第 30 回	浅草・弾左衛門の史跡をたどるフィールドワーク 2019 年 6 月 15 日(土) スピーカー：水野松男さん 参加者：20 名
第 31 回	女たちは声をあげはじめた～『私たちにはことばが必要だ』からみる韓国の女性たちのいま～ 2019 年 7 月 13 日(土) スピーカー：すみみさん、小山内園子さん 参加者：64 名
第 32 回	大西暢夫 写真展「ひとりひとりの人—精神科病棟取材 17 年の記録」& 映画「オキナワへいこう」上映会&トーク 〈写真展〉2019 年 10 月 23 日(水)～27 日(日) 〈上映会〉2019 年 10 月 27 日(日) スピーカー：大西暢夫さん 参加者：56 名(映画)
第 33 回	浅見安二郎コンサート ブルースハープの世界 2019 年 12 月 7 日(土) スピーカー：浅見安二郎さん、高橋新吾さん 参加者：17 名

■聖書講座－新しい聖書の学び『マルコ福音書をジックリ読む(Part2)』（共催）

2018年度の継続で「マルコ福音書」2章23節以下を丁寧に読み進める。フェミニスト、ポストコロニアル、クイア、障碍の神学などからの新しい読み方も紹介。

受講者数：平均18名

期 間：通年毎月第2火曜日全10回

講 師：山口里子(日本フェミニスト神学宣教センター共同ディレクター)

共 催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

■聖書講座－上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もう－この時代の中で聖書からメッセージを読み解く(共催)【新規】

長い牧会生活と定評ある聖書解釈で知られる牧師と共に、聖書の魅力、面白さ、そして感動を味わう。本年度は第1期として「イエスの教えと生きざま～福音書から」を学ぶ。

受講者数：平均15名

講 師：上林順一郎(元早稲田教会牧師)

共 催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

(4) 学寮運営事業(友愛学舎・ゲストハウス)

■友愛学舎

舎生数：2019年度は4年生3名、3年生3名、2年生3名の在寮生に加え、新1年生4名を迎えた。

活 動：朝 の 会 学期期間中の月曜日から金曜日の基本7時から7時30分まで。聖書研究(マルコによる福音書、マタイによる福音書)及び学生発表等を行った。

舎 生 会 毎月1回開催、友愛活動・生活について話し合った。

年間活動 4月の活動開始に向け、新入生を含めたオリエンテーションを3月22日から23日まで、秩父にて実施し、寮生活の意義や奉仕園や友愛学舎の歴史を学ぶ機会を持った。卒舎式(3月)などの行事のほか、年中行事を楽しむ会などを担当し留学生の引率を行った。また教会はじめ外部団体と連携し海外研修やボランティアの機会を増やし、広い視野を持って社会に出て行かれるようサポートをおこなった。

協 力：奥山京音伝道師(早稲田教会)にカウンセラーとして、古賀博牧師、大矢直人牧師、中澤重光宣教師に聖書研究のほか寮運営全般のアドバイザーとして奉仕いただいた。

■キリスト教学生寮懇談会

都内及び近郊のキリスト教主義による超教派の学生寮のネットワーク。2019年度は会合を開催できなかったが、友愛学舎を含む9学寮(信愛学舎、山手学舎、山上学寮、東京ティラナスホール、登戸学寮、春風学寮、東大YMCA寮、一橋YMCA寮)の担当者間で、随時連絡を取った。

■ゲストハウス

大学学部生・大学院生・研究者のための寮、8名が在寮。奉仕園プログラムなどへの積極的な参加を促した。

(5) 早稲田大学との協力による学寮運営事業 (国際友愛学舎)

■国際学舎

早稲田大学の外国人留学生・研究員寮。レジデントアシスタント(RA)がRAコミュニティルームに平日の19時から21時まで常駐。早大レジデンスセンターとの情報共有に努め、留学生が安心して安全な寮生活を送れるよう、近隣にある交換留学生寮(早大寮・西早稲田寮)とも連携を図った。

2019年度国・地域別居住者数(合計274名、36の国と地域 RA含む)

アメリカ	52	中国	32	イギリス	26	フランス	18
日本	14	韓国	13	ドイツ	12	スイス	10
カナダ	9	フィンランド	9	台湾	9	イタリア	8
オーストラリア	8	スペイン	8	オランダ	6	スウェーデン	6
デンマーク	5	シンガポール	4	香港	4	ノルウェー	2
アイルランド	2	イスラエル	2	ルクセンブルク	2	ブラジル	1
コロンビア	1	ドミニカ	1	エストニア	1	インドネシア	1
ラトビア	1	ニュージーランド	1	フィリピン	1	タイ	1
ベトナム	1	ベルギー	1	インド/日本	1	マレーシア	1

■留学生健康相談室の運営

必要に応じて個別面談を実施し健康状態の把握に努めた。早稲田大学とも連携し、緊急時を含めてすみやかに対応できるように、連絡体制などを随時確認した。

開室時間：月曜日または木曜日(月2回)14:00~18:00

第1水曜日 11:00~15:00

第3火曜日 16:00~18:00

相 談 内 容：病院の紹介、栄養指導、ケガの応急処置、風邪の初期対応、感染症(新型コロナウイルス)についての情報提供、健康状態の把握、既往歴患者へのフォローアップなど。

■ウェルカムパーティー

寮生間の親睦をはかるパーティー。新入生を歓迎し入寮の時期となる4月(60名参加)及び9月(100名参加)に開催した。9月は友愛学舎がホストを務めた。パーティーを通じて、新入生と在寮生は仲良くなり、良い交流の場となった。

■奉仕園クリスマス会

12月14日に開催した。奉仕園学生寮の寮生を中心に100名ほど参加した。3号館ロビーでのオープニングティーパーティーと交流パーティーのほか、スコットホールでの「しずかなひととき」、そして留学生たちの素敵なアトラクション、恒例の友愛学舎生による劇の上演、と充実したプログラムだった。

■第10回富士山登頂研修旅行

留学生との国際交流と富士山の自然に触れることを目的に、共に山頂をめざした。事前オリエンテーションにて、富士山のことや登山の知識等のレクチャーをおこなった。なお、多くの留学生が個人的に富士登山を行なっている現状を鑑み、2019年度をもって当研修旅行は終了とした。

参加人数：20名(友愛学舎生1名、留学生2名、引率職員2名、NPOココロとカラダを育てるハッピープロジェクト6名、延辺大学生9名)

期 間：7月31日~8月2日2泊3日(1泊は山小屋)

協 力：日本YMCA同盟東山荘、NPOココロとカラダを育てるハッピープロジェクト

■Cooking Exchange Program

料理を共に作り、ともに食べることを通じて国際理解を促進することを趣旨としたプログラム。第1回は10月にインド料理体験を予定だったが、参加者が集まらなかったため実施できなかった。第2回は3月27日に日本料理体験&お花見を実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

■第3回北海道三笠市研修旅行

北海道三笠市を訪問し、地域施設訪問、スキー体験などを通じて日本の歴史、文化、地方自治体の現状などへの理解を深めた。

参加人数：早稲田大学在籍の外国人留学生9名、RA1名、引率1名

期 間：2月6日～8日、2泊3日

日 程：

	2月6日(木)	2月7日(金)	2月8日(土)
午前	羽田空港発	三笠市博物館見学	ホテル出発、札幌駅解散
午後	さっぽろ雪まつり見学	スキー体験	
夕	懇親会	懇親会	
泊	HOTEL TAIKO	HOTEL TAIKO	

協 力：北海道三笠市教育委員会

成 果：本来の研修旅行の目的であった現地の小学生との交流はノロウィルスの流行のため果たせなかったが、北海道での経験を通じて新たな日本の魅力を留学生と発見できた。

■ホームビジット

留学生に東京近郊の一般的な日本人の生活に触れてもらう機会を提供した。留学生を迎えるホストファミリーとして、奉仕園OBOG、早稲田教会、奉仕園日本語ボランティアの会などにご協力いただいた。

実施期間：前期6月8日～7月6日、後期10月26日～12月7日

参加人数：前期4つのホストファミリーに9名の留学生が訪問、後期5つのホストファミリーに9名の留学生が訪問。また、ホームビジットの関係を通じてご招待をいただいているクラシックコンサート(1演目)に6名が参加した。

■第3回留学生インスタ写真展

日本に住む海外からの留学生を対象にインスタグラムを使用したWEB写真展を開催。留学生10名の受賞作品を選定し、7月に授賞式を行った。

実施期間：2019年4月1日～5月22日

テ ー マ：「私の出会った日本/My special Japan」

贈 呈 式：2019年7月2日

協 賛：公益財団法人高山国際教育財団、万座温泉日進館万座温泉ホテル、
特定非営利活動法人シャプラニール

成果：留学生の視点で撮られた写真は技巧を凝らした構図のものから何気ない日常を切り取ったものまで幅広かった。特に今回は関東圏だけでなく四国や関西からの投稿も多く広がりを見せた。

2. 収益事業

(1) 駐車場及び貸事務所等の賃貸並びに管理受託事業

■不動産賃貸事業

月極駐車場及び事務所の賃貸、宣教師館・牧師館、教会への施設貸出し。月極駐車場は1台分増設したが、通年ほぼ満車の契約をいただいた。

(2) 会議施設及びホール施設の貸与事業

■施設の貸与(会議室・ホール)

- ・ 一般利用のお客様は、会議室・ホールは学習会、語学教室、音楽練習やコンサート、講演会など多岐に渡ってご利用いただいている。学生からシニアまで客層は幅広い。
- ・ 複雑化していた料金区分を「会社料金」「料金」「学生料金」という3区分に再編し、お客様がどの料金区分に属しているのか分かりやすくした。
- ・ 2019年4月より、予約受付日を毎月1日受付からWebでの180日後自動更新受付に変更した。今まではお客様が早朝に並び先着順で受付しており、遠方のお客様が来られないなどの課題があったが、現在は180日後の予約がスライド的に午前0時に毎日解禁されるシステムに変更したことにより、在宅24時間での予約が可能となった。
- ・ 撮影は33件のスチール撮影と14件の動画撮影、計47の撮影使用があった。スチールは90%がファッション雑誌・カタログ関係、動画は媒体の約80%がテレビで、連続ドラマ再現VTR、情報バラエティ番組に使用された。最も大きな撮影はCM撮影だった。

■施設の改修・修繕

- ・ リバティホール壁面と腰壁改修。壁面はマグネット取付とプロジェクターの直接投影が可能となった。
- ・ 音響機器のトラブルが続いた前年度を踏まえ、4月と10月に音響専門業者にメンテナンスを依頼した。ワイヤレスマイクのチャンネル整理、コード整理などの改修をおこない、トラブルが激減した。

- ・ スコットホール地下「音楽室」を「スコットB1」と改め、会議室としても利用可能な防音設備を備えた部屋に一新した。
- ・ 渡辺禎雄版画の寄贈を受け、フロントに渡辺禎雄版画を展示した。

■早稲田スコットホールギャラリー

- ・ 企画展「祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol.1」を1月24日から29日に開催しおよそ150名の来場があった。
- ・ 猫をモチーフにした展示のリピート利用、同窓会を兼ねた1日貸の展示利用のほか、撮影のリピート利用が続いている。
- ・ セレモニーなどさまざまな利用に対応できるオープンスペースとしての案内を心掛けた。

■プログラム(協賛を含む)の開催

- ・ スコットホール公開&ガイドツアーは10月31日に開催、来場者は約120名、ガイドツアーは本年より事前申込制とした。
- ・ 関連企画として2つの自主クラス(美術レッスンと夏目坂写真塾の有志参加者による)合同作品展「つたえたい、のこしたい、暮らしとまちなみ」を開催した。
- ・ チャリティ古本市は第22回を5月15日から7月20日に実施し49,350円を「Stand with Syria Japan」に、第23回を10月29日から12月10日に実施し50,272円を「映画「風の電話」自主上映実行委員会」に寄付した。
- ・ セミナーハウス予約システム導入会社のリザーブリンク社「予約ラボ」とのコラボレーション企画として「予約の勉強会」をギャラリーでおこなった。貸会議室以外の異業種の方々と「予約」という共通項のもと、抱えている課題や予約システムについての共有をおこなう有益な機会となった。

3. 公益目的事業・収益事業共通業務

■広告・宣伝

ホームページ、SNS等による情報発信の強化に努めたほか、貸会議室検索サイトへの掲載、駅構内地図への広告終了など宣伝媒体の見直しを進めた。

■事業評価

6月18日にセミナーハウス事業部、10月15日に活動事業部を取り上げ、職員間での課題に対する理解と改善策を話し合った。1月21日には新規事業についてブレインストーミング形

式でアイデアを出し合った。

4. 記念事業

ベニンホフ記念館(5号館)竣工・セミナーハウス開設50周年及びスコットホール献堂100周年記念として2019年度は次の事業を実施、あわせて募金をおこなった。

■被爆ピアノコンサート「未来への伝言」

広島在住の調律師・矢川光則さんが被爆したピアノを演奏できるように修理し、2000年から国内外で演奏会が開かれてきた(2017年のノーベル平和賞授賞式コンサートでも演奏)。朗読講座講師・飯島晶子先生のライフワークとして行なっている当コンサートを共催にて開催し、スコットホールのパイプオルガンの音色とともに平和を考えるひと時となった。8月1日より11日までギャラリーにてNPO法人世界ヒバクシャ展による写真展を同時開催した。

日 時：2019年8月9日 昼の部 14時～16時、夜の部 18時30分～20時30分

出 演：ピアノ 谷川賢作、鷺宮美幸

ヴァイオリン 佐久間大和

歌 おおたか静流

朗読 飯島晶子

演劇 クラーク記念国際高等学校

パイプオルガン 水野均

来場者：昼夜のべ300名以上

■パイプオルガンコンサート

スコットホールに設置されたオルガンの披露も兼ね、早稲田教会との共催プログラムとして、春秋2回の公演を実施した。

第1回 5月18日 演奏：水野均(早稲田教会オルガニスト)、ほか 来場者約132名

第2回 11月4日 演奏：今井奈緒子(霊南坂教会オルガニスト)、ほか 来場者約110名

■募金

8月より2022年7月まで、スコットホール及び5号館の整備と記念事業実施のため、募金を開始した。2019年度は個人58、団体8件の計1,192,500円の寄付をいただいた。

5. 法人総務

■財団会議

①理事会

第1回定時理事会(6月10日)

みなし理事会(6月27日)

第2回定時理事会(3月2日)

②評議員会

定時評議員会(6月27日)

③常任理事会

第1回常任理事会(5月31日)

第2回常任理事会(10月28日)

第3回常任理事会(2月20日)

④評議員・理事・監事懇談会(新型コロナウイルスの影響により中止)

■監査

監事監査 5月16日(決算)、11月22日(期中)

監査法人監査 4月2日(実査)、5月15日～16日(決算)、11月22日(期中)

■役員等人事

【理事】再任：鎌田薫(理事長)、相賀昇、大橋正明、古賀博(以上常任理事)、阿部千秋(専務理事)、
稲垣隆一、土屋忍、西川嗣夫

新任：小川忠、弦間正彦

退任：奥島孝康、森田典正

【評議員】再任：石川良一、大江浩、大矢直人、名取智子、原真由美、土方恭子、李明生

新任：岡崎菜佳子、小川有閑、関伸子、高木範夫、藤井公博

退任：黒住直、茨木龍芳、吉岡康子、佐藤宏之、根本進、有田大輔

■登記

役員及び評議員変更登記(7月31日付)

評議員変更登記(3月19日付)

■行政庁(内閣府)諸届

2018年度事業報告等の提出(6月28日)

評議員・理事・監事変更届の提出(8月20日)

2020年度事業計画書等の提出(3月30日)

■内閣府立入検査

実施日：10月17日

内 容：法人の事業活動全般の説明の後、事業・法人運営・会計に関する検査

■早稲田奉仕園賛助会員

2019年度は個人88名と1法人に加入いただいた。

■広報

奉仕園通信は77号(7月31日)、78号(2月29日)を発行、ホームページの更新及び「奉仕園スタッフのブログ」の掲載を随時おこなった。

■奉仕園ホームカミングデー

11月4日に開催、前半はパイプオルガン演奏会にジョイントしその後記念礼拝を行った。また同夕友愛学舎OB会が開催された。

■キリスト教施設長会議

早稲田奉仕園がホストとなり、早稲田奉仕園及び韓国YMCAを会場に1月15日から16日まで開催、阿部千秋及びマネージャーが出席した。

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。